ご利用中のお客様、販売パートナー様限定

SecureCube Access Check
新バージョン（6.2.0）のご紹介

2024年6月20日

NRIセキュアテクノロジーズ株式会社
ソフトウェア第二事業本部
統制ソリューション事業部

SecureCube Access Check V6.2.0 新バージョン説明会

- 新バージョン6.2.0のご紹介
- サポート対象バージョンと期限
- メジャーバージョンアップの進め方
- 質疑応答

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

新バージョン6.2.0のご紹介

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

2024年5月30日に新バージョン6.2.0をリリースしました

NRIセキュア 2024年5月30日ニュース　https://www.nri-secure.co.jp/news/2024/0530

ニュース

NRIセキュア、特権ID管理ソリューション「SecureCube Access Check」の新バージョン（6.2.0）を提供開始

クラウドサービスの特権IDについて、パスワード秘匿化・迂回アクセス検知が可能に

2024.05.30
NRIセキュアテクノロジーズ株式会社

NRIセキュアテクノロジーズ株式会社（以下、NRIセキュア）は、情報システムのあらゆる操作権限を持つ「特権ID」[i]の管理ソリューション「SecureCube Access Check（セキュアキューブアクセスチェック：以下、本製品）」[ii]の新バージョン（6.2.0）を本日から販売します。

近年クラウドサービスの活用は急速に普及し、今や複数のクラウドサービスを利用している企業は少なくありません。クラウドサービスにおいても、オンプレミスのシステム同様、特別な権限を持つ管理者アカウントの適切な管理が求められます。そこで、新バージョン（6.2.0）では、クラウドサービスに対する特権IDの利用についても、パスワードを秘匿化し、迂回アクセスを検知できるように機能強化を行いました。

新バージョン6.2.0の対応事項

以下は、不具合対応や細かなリリース機能記載しておりません。

バージョン		対応時期	対応事項	内容
Version 6	V6.0	2023年 6月	● 稼働環境の更改	稼働環境 OS を Red Hat Enterprise Linux 8.6 に更改。
			● 動作環境の追加	Microsoft Azure を動作環境として正式サポート。
			● 日次レポートの形式追加	日次レポートにPDF形式を追加。
			● Web画面の刷新	Web画面を刷新し、検索結果画面の表示数の拡大やデザインの変更を実施。
	V6.1	2023年 11月	● RDP中継機能のNLA対応	ネットワークレベル認証（NLA）を有効化しているWindowsサーバへもRDP中継可能に。
			● ID棚卸機能の強化	ID情報収集ツールで取得した管理対象システムのアカウント情報をWeb管理画面で一覧化。
	V6.2	2024年 5月	● 中継自動接続機能（オプション）の強化	中継自動接続ツールを利用してHTTP(S)のパスワード秘匿中継が可能に。
			● 迂回アクセス検知機能の強化	これまで標準対応していたWindowsやLinux以外のプロダクトについても、カスタムスクリプトを登録することで迂回接続情報収集対象に追加可能に。
			● 稼働環境の追加	稼働環境OSとして、Red Hat Enterprise Linux 8.8 を追加。
	V6.3 ※	2024年 11月	● 大規模環境対応の強化	ノード数の上限値3万台を緩和し、さらに大規模な環境においても性能劣化なく利用可能。また、拠点間における冗長化へも対応。
			● 自動特権昇格機能の追加	SSH中継利用時に、一般ユーザでログイン後、ユーザによるパスワード入力なく、自動で特権アカウントへ昇格が可能。
			● 再鑑者による接続許可機能の追加	再鑑者がWeb画面上で許可しない限り、中継が開始できないことから、作業開始時に必ず再鑑者が確認していることを担保可能。

次期バージョンにつきましては、別途内容や時期等を検討・整理した上で、対応いたします。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

（参考）これまでのバージョンアップでの機能強化について

以下は、不具合対応や細かなリリース機能記載しておりません。

バージョン		対応時期	対応事項	内容
Version 3	V3.3	2009年12月	● RDP/CIFS中継対応（オプション）	リモートデスクトップ接続、およびCIFSを利用した中継機能をサポート。
			● キーワード検知機能	TELNET/SSH中継時の通信内容に対して、登録したキーワードを検索・検知。
	V3.4	2010年　5月	● LDAP認証連携機能	外部の認証サーバ（AD, LDAP）でユーザ認証が可能に。
			● マルチホーム構成対応	複数セグメントにまたがった構成が可能に。
	V3.5	2011年　3月	● 動作OS移行	64bit Linux OS上での稼働をサポート。
			● SCP/SFTP対応	SCP/SFTPプロトコルを利用した中継機能をサポート。
			● ログ暗号化、改竄検知機能対応	ログの暗号化、およびログの改ざんを検知する機能を追加。
			● AC自身への通信暗号化	Access Checkメンテナンス用の接続をSSH/HTTPSに制限可能に。
			● アクセス申請機能の強化	アクセス申請に、手順書などファイルが添付可能に。
	V3.6	2011年11月	● 特権パスワード管理連携オプション	特権IDパスワード管理システム（PowerBroke Password Safe）と連携し、特権IDのパスワードを入力せずに自動ログインを可能にする機能を追加。
			● アクセス申請機能の強化	アクセス申請によるサーバごとのアクセス制御が可能に。また、重複申請を不許可にする設定が可能に。
			● ログの事後確認（監査）機能	アクセス申請一覧から関連するログを確認した際、確認証跡を残す機能を追加。
			● ID登録バッチ機能	ユーザIDの登録・更新・削除をバッチで実行することが可能に。
	V3.7	2013年　1月	● ホットパッケージ版	プログラム修正やセキュリティホール対応を最新に。
			● RDP中継動作環境追加	Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2を動作環境に追加。
	V3.8	2015年　10月	● 動作環境追加	サポート対象とする動作環境にIE9,10,11,Windows8.1を追加。
			● ミドルウェアバージョンアップ(Java等)	製品内部で利用している各種ミドルウェアを一部バージョンアップ。
			● TLS v1.2対応	各種SSL/TLS通信をTLS1.2に対応、同時にCVE2015-4000対応を実施。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

（参考）これまでのバージョンアップでの機能強化について

以下は、不具合対応や細かなリリース機能記載しておりません。

バージョン		対応時期	対応事項	内容
Version 4	V4.0	2013年　1月	● 動作OS移行	Red Hat Enterprise Linux Version6.0(64bit)上での稼働をサポート。
			● スケーラビリティ対応	中継を担うサーバと情報を管理するサーバに分け、スケールアウトが容易な構成に。
			● アクセスポリシー管理	アクセス制御をポリシーベースとし、柔軟な制御要件に対応可能に。
			● 画面インターフェイスの刷新	パスワードポリシーや機能の利用有無などが画面で設定可能に。
			● LDAP認証連携機能の強化	外部の認証サーバに保持されたユーザ情報を利用可能に。
			● 外部W/F連携機能	中継の際、外部のW/Fシステムで作成されたアクセス申請情報が利用可能に。
	V4.1	2013年11月	● DB中継対応	Oracle SQL *Plus を利用した中継機能をサポート。
			● CIFS中継機能の刷新	WebDAVを利用した操作から、エクスプローラの通常操作でのファイル共有へ。
			● その他TCP中継対応	これまでの特殊プロトコル中継を刷新し、中継利用時にアカウント認証が可能に。
			● アクセス申請機能の強化　等	アクセス申請承認時に多段承認が可能に。
	(V4.2) V4.3	(2015年　3月) 2015年　8月	● 重要情報検知オプション	TELNET/SSH/FTP/SCP/SFTP/CIFSの通信内容に対して、重要情報を検索し、検知された場合、監査者へ通知。
			● 持出ファイル名申請機能	予め申請した持出ファイル名以外のファイル持出があった場合、監査者へ通知。
			● 接続ノード鍵認証機能	SSH/SCP/SFTPへ自動ログインする方法として、鍵認証方式を追加。
	V4.4	2016年　7月	● 内部PPM機能（オプション）	事前に登録したノードの特権パスワードを用いて自動ログインすることが可能に。
			● 未使用アカウントロック機能	設定した日数以上ログインしていないアカウントをロックする機能を追加。
	V4.5	2017年　3月	● 二要素認証（オプション）	ログイン時にワンタイムパスワードを利用した二要素認証が可能に。
			● アクセス申請/接続設定CLI 機能	アクセス申請/接続設定の登録をコマンドラインで実行できる機能を追加。
			● アクセス申請ノード指定機能	アクセス申請の際、ユーザがポリシーで許可されたノードを指定可能に。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

（参考）これまでのバージョンアップでの機能強化について

以下は、不具合対応や細かなリリース機能記載しておりません。

バージョン		対応時期	対応事項	内容
Version 5	V5.0	2018年　12月	● 特権IDパスワード管理機能を標準搭載	外部製品と連携して実現していた特権IDパスワードの自動変更や、有効期限の設定などが標準搭載に。
			● アクセス制御機能の即時遮断	事前に設定した不正行動を検知した場合、即時かつ自動的に通信を遮断可能に。
			● マルチテナント利用対応	複数の企業や組織を跨ぐID管理を本製品一つで管理可能に。
			● APIを公開	各種機能のカスタマイズが可能になり、外部のシステムとの連携が容易に。
			● マスタ情報のワークフロー対応	マスタ情報（接続先ノード管理、ユーザ管理、アクセス制御ポリシー管理）の登録・更新・削除がワークフロー経由で実施可能に。
	V5.1	2019年7月	● 中継自動接続機能（オプション）	接続先の指定、接続先へのログインを自動で行えるようにクライアントツールを提供。
			● シングルサインオン機能	社内ポータルサイトでIDとパスワードを一度入力して認証されれば、次回からユーザー認証が不要に。
			● リモートデスクトップ接続機能の強化	リモートデスクトップ接続機能でログインした際、接続先機器上でコピーした内容を接続元端末の画面に貼り付け可能に。
			● 特権IDパスワード管理機能の強化	外部製品と連携せずにWindows等のLinux以外のシステムも、標準機能の対象に。
			● バックアップ機能	各種ログファイル、設定ファイル、LDAPバックアップ、DBダンプファイルを指定されたバックアップサーバへ転送可能に。
	V5.2	2020年7月	● 全プロトコル対応動画取得機能	Windows環境経由でアクセスすることで、あらゆるプロトコルで接続した先での操作が録画可能に。
			● ID情報収集ツール	ローカルまたはドメインのアカウント情報（ユーザーID、最終ログイン日時、最終パスワード変更日時）をすべて収集し、その結果を一覧で取得可能に。
			● パスワード払出機能	接続先ノードアカウントのパスワードをワークフローに基づき払出可能に。
			● ノードアカウント登録上限数の変更	１ノード10ノードアカウントから１テナント100,000ノードアカウントへ変更。
	V5.3	2021年1月	● ログ改ざん検知機能	取得、保存したログ情報が改ざん、または削除されていないかをチェックし、その結果を管理者へ通知。
			● ホスト名でのアクセス制御を実現	ホスト名でアクセス制御を行う機能を実装。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

（参考）これまでのバージョンアップでの機能強化について

以下は、不具合対応や細かなリリース機能記載しておりません。

バージョン		対応時期	対応事項	内容
Version 5	V5.4	2021年9月	● 特権パスワード管理機能の強化	特権パスワード管理機能に標準対応していないプロダクトも、管理画面上で簡単に登録可能に。パスワードに使用する半角記号文字をプロダクトごとに細かく設定可能に。
			● CIFS中継機能の刷新	RFCに準拠した仕様へ刷新。CIFS中継を素早く開始するツールを提供、1つのWindows環境に存在するすべての共有フォルダへの接続設定を一括登録可能に。
	V5.5	2021年11月	● マスタ管理支援ツール	● マスタ管理者のクライアント端末で動作する、CSV編集ができるツールで各項目値を直感的に編集可能に。
			● 申請時のテンプレート対応	● 申請時に設定したポリシーを保持し、テンプレート化することで簡単に申請可能に。
	V5.5.1	2022年4月	● ダッシュボード機能追加	● グローバル管理者、テナント管理者、監査者のトップページに下記ダッシュボード画面を追加し、AC の使用状況や監査補助となる情報を確認可能に。
	V5.6	2022年10月	● 外部サービス連携機能追加	● 外部サービスを登録し、アクセスキー、シークレットキーを発行する機能を追加。これにより、外部サービスからアクセスキー認証を行い、WebAPIを利用することが可能に。
	V5.6.1	2023年1月	● ダッシュボード機能等の機能拡充 ● 動作環境拡充	● ダッシュボード画面の内容をCSV出力することが可能に。 ● TNS中継の対応バージョン、接続元/接続先OSの追加。

V5の今後のリリースについては未定です。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

Ver.6.2.0で提供される新機能のご紹介

更新情報1

中継自動接続機能（オプション）の強化

SecureCube Access Checkでは、ユーザが特権IDのパスワードを入力することなく、接続先と特権IDをクライアントツール上で選択するだけで、対象機器へログインできる機能（中継自動接続機能）を提供しています。**今回、対象プロトコルの範囲を拡げ、HTTP(S)でクラウドサービスに管理者アカウントなどでログインする際にも、パスワードを入力することなく、アカウントを選択するだけでログインできるようになりました。**ユーザは、管理者アカウントのパスワードを知ることがないため、漏えいリスクが軽減します。さらに、ユーザが利用可能な管理者アカウントを制御することも可能です。

更新情報２

迂回アクセス検知機能の強化

SecureCube Access Checkでは、 SecureCube Access Checkを経由せずに迂回してアクセスしたログを対象機器から収集し、ダッシュボード上で確認できる機能を提供しています。**今回、これまで対応していなかった機器に対してもカスタムスクリプトを登録することで検知可能になりました。**また、検知頻度も設定で変更できるようになったほか、迂回アクセスを検知した際には指定のメールアドレス宛に通知することも可能になりました。これらの機能強化により、万が一、SecureCube Access Checkで制御できないアクセスが発生した場合でも、早期に検知することができます。

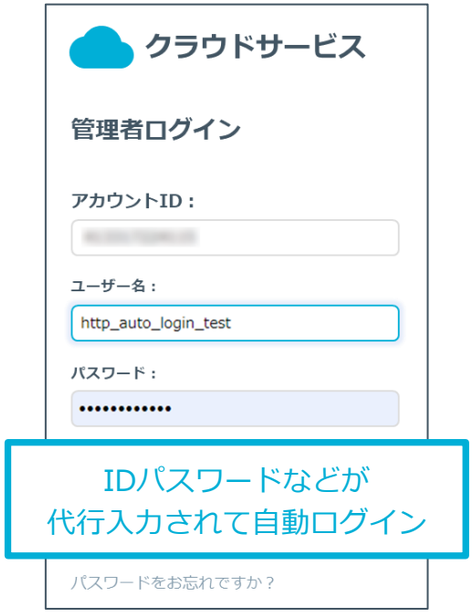
© NRI SecureTechnologies, Ltd.

中継自動接続機能（オプション）の強化

- クラウドサービスの管理者アカウントを利用する際も、パスワードを秘匿化してログイン可能
- 中継自動接続ツールにて、利用したい管理者アカウントを選択するだけで自動で接続開始

中継自動接続（ARC）ツール

ログイン画面（イメージ）



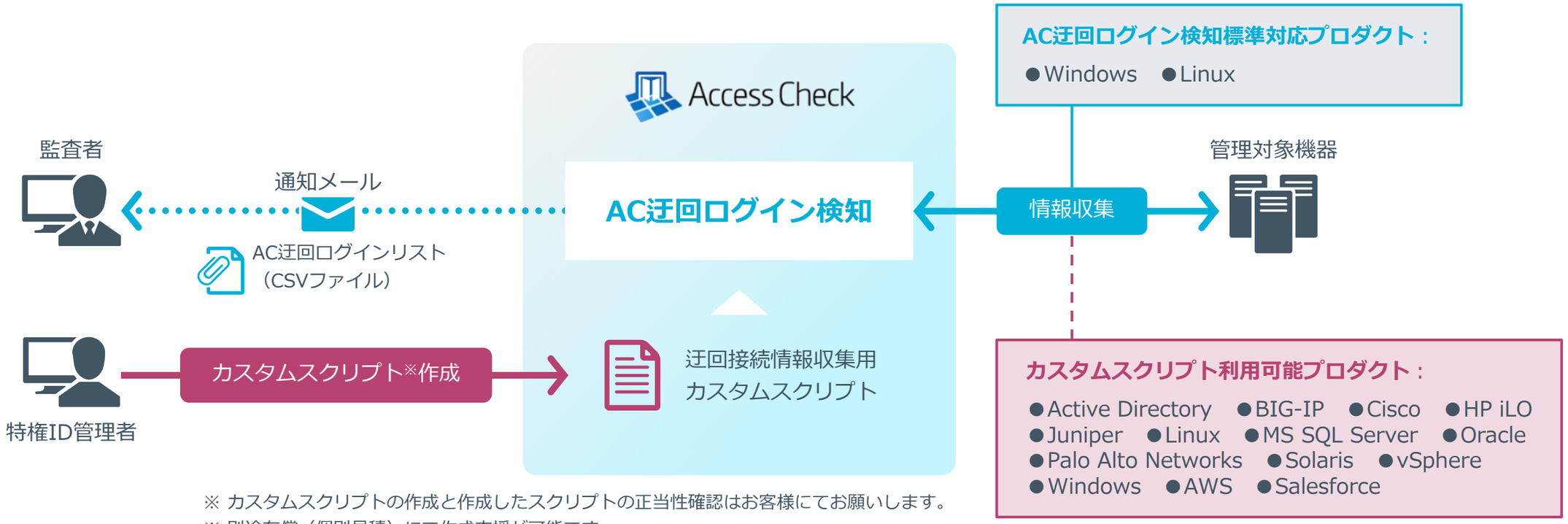
事前にクラウドサービスの認証情報などを設定

※ IDパスワードが一画面かつname, id, xpathでIDパスワードの入力欄を識別できることが前提条件となります。
※ OTPなどの多要素認証に対応している場合には、別途認証情報を入力いただく必要がございます。
※ Webサイトの作りによっては自動ログインできないケースがあるため、事前に検証いただくことを推奨します。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

迂回アクセス検知機能の強化

- これまで標準対応していなかったプロダクトについても、カスタムスクリプト利用で検知が可能
- SecureCube Access Checkを経由せずに接続ノードにログインした場合、その接続ノード、およびログインした接続元IPアドレスなどをダッシュボードに一覧で表示するだけでなく、管理者宛にメールで通知可能
- 情報収集の実行間隔は最短1時間から指定することが可能



※ カスタムスクリプトの作成と作成したスクリプトの正当性確認はお客様にてお願いします。
※ 別途有償（個別見積）にて作成支援が可能です。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

サポート対象バージョンと期限

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

保守サポートの対象バージョンとフルサポート期限について

		2024年 5月30日	2024年 11月末	2025年 5月末（予定）
Ver.4	Ver.4.5以前	すでに**限定サポート**		
Ver.5	Ver.5.5以前	すでに**限定サポート**		
	Ver.5.6	Ver.5.7 もしくは Ver.7 がリリースされた半年後に限定サポートへ移行		
Ver.6	Ver.6.0	2024年11月末までフルサポート	限定サポート	
	Ver.6.1	Ver.6.3リリースの半年後（2025年5月末予定）までフルサポート		限定サポート
	Ver.6.2	Ver.6.4 もしくは Ver.8 がリリースされた半年後に限定サポートへ移行		

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

限定サポートについて

- フルサポート対象外のバージョンをお使いのお客様にはバージョンアップをお奨めしており、バージョンアップまでは**限定的なサポートサービス**となります。

『 Access Checkソフトウェア／サポートサービス仕様書 』より一部引用

3）サポート対象外バージョンのサポートサービスについて

最新バージョンがリリースされ、サポート対象外になるバージョンをお使いのお客様にはバージョンアップをお奨めしており、バージョンアップまでは限定的なサポートサービスとなります。（サポートサービス契約継続が前提になります。）

主なサービス内容	サポート対象	サポート対象外
サポートサイト、電話による Q&A 対応	○	○
マイナーバージョンアップモジュールの提供	○	○
新規パッチ（プログラム修正）の提供	○※1	×
不具合に対するワークアラウンドの提示	○	○※2
ソフトウェアのセキュリティホール対応モジュールの提供	○※1	×

※1　パッチリリース時点でサポート対象としている最新リビジョン向けにご提供致します。

※2　新規のワークアラウンドのご提供はありません。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

バージョンアップの進め方

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

メジャーバージョンアップの進め方

Ver.6.x をご利用の場合

サポートサイトよりバージョンアップモジュールと手順を取得し、現環境へ適用ください。

Ver.5.x または Ver.4.x をご利用の場合

有償

稼働OSの変更、および、Ver.6ライセンスの買いなおし（**再構築**）が必要です。
Ver.6環境の新規構築の際には、現行環境からの**データ移行ツールを提供しています**。

Ver.3.x をご利用の場合

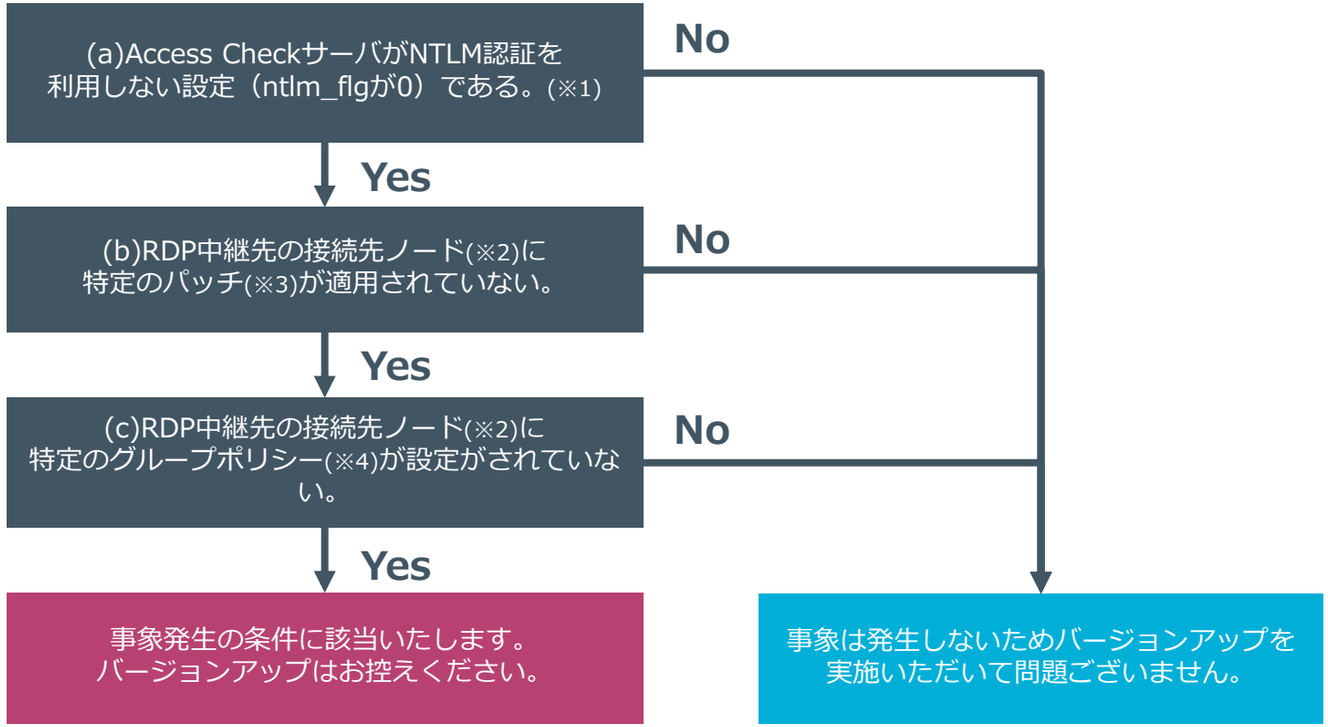
有償

稼働OSの変更、および、 Ver.6ライセンスの買いなおし（**再構築**）が必要です。
Ver.6でのマスタはVer.3のマスタと大きく異なるため、**データ移行ツールの提供はありません**。
ポリシー作成支援サポート等のサービス利用をご検討ください。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

バージョンアップについての注意事項

- 以下の条件に当てはまる場合にはv6.1.0,v6.2.0でRDP中継に失敗するため、パッチが提供されるまでバージョンアップはお控えください。



(※1) 設定確認のためのコマンドはこちらです。
RDSを利用しない場合　# mysql -uroot -p<DB のパスワード> g000 -e "select ui_id, ntlm_flg from g_mst_accessui_protocol where protocol_id = 'RDP'";
RDSを利用する場合　# mysql -h <RDSのエンドポイント> -uroot -p<DB のパスワード> --ssl-cipher=DHE-RSA-AES256-GCM-SHA384 g000 -e "select ui_id, ntlm_flg from g_mst_accessui_protocol where protocol_id = 'RDP'";
(※2) 対象はWindows 10、Windows Server 2016、Windows Server 2019です。
(※3) 対象のパッチ番号（KB）はMicrosoftのサイト(https://msrc.microsoft.com/update-guide/ja-jp/advisory/CVE-2018-0886)でご確認ください。
(※4) 以下の全てのグループポリシーが設定されていない場合は本事象の対象となります。
[リモート接続にネットワーク レベル認証を使用したユーザー認証を必要とする]：無効
[クライアント接続の暗号化レベルを設定する]：有効-低レベル
[リモート(rdp)接続に特定のセキュリティレイヤーの使用を必要とする]：有効 - RDP

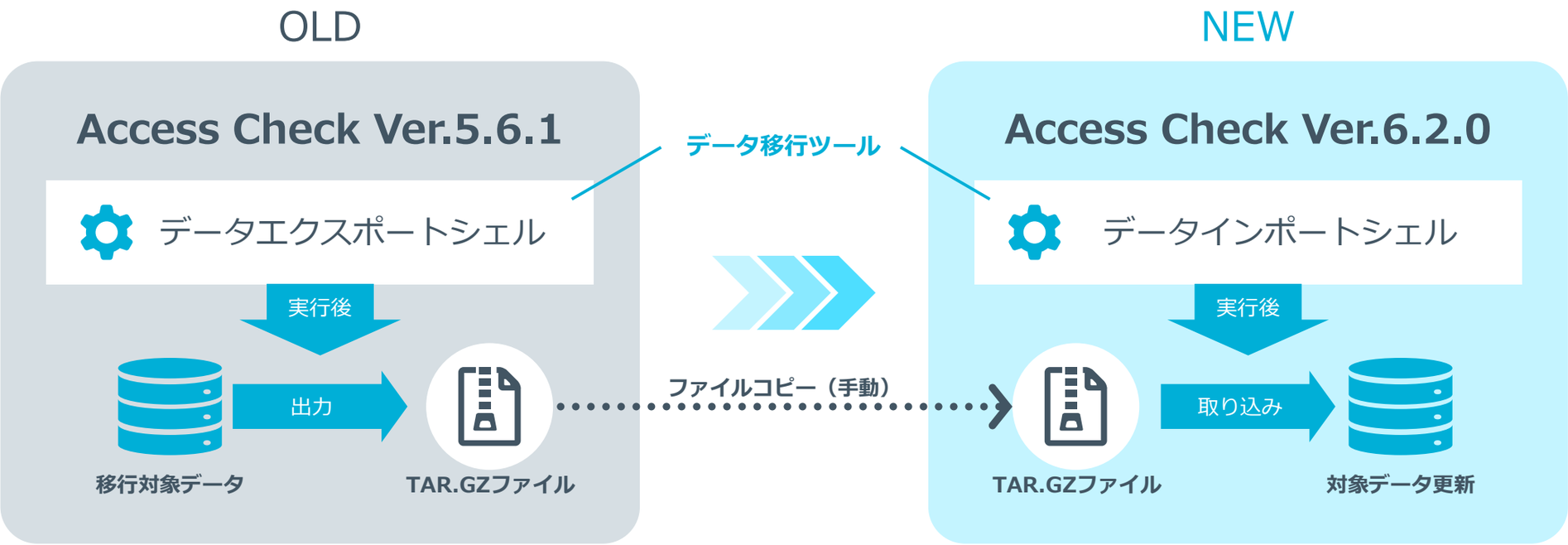
© NRI SecureTechnologies, Ltd.

Ver.5向けデータ移行ツールを提供

データ移行ツールにより、Ver.5.6.1からマスタ情報などのデータを移行できます。

移行対象データ

- コンポーネント（ACCore、AcUI、WebUI）の設定ファイル
- マスタ情報（ユーザ、ロール、接続システム、接続ノード、ポリシー）
- LDAP（ユーザ情報）
- 監査・閲覧を目的としたアクセスログに関するデータ（アクセスログ、操作ログ、申請情報）



※本ツールによるデータ移行作業は、Access Check構築支援パック（Platinum/Gold）での弊社作業には含まれておりませんが、ご要件に応じて、データ移行支援サービスとして提供可能です。費用は別途個別見積もりとなります。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

Ver.4向けデータ移行ツールも提供

- **Ver.4.5.4向けにもデータ移行ツールを提供しますが、Ver.5向けと移行できるデータが異なります。**

移行元Ver.	設定ファイル	マスタデータ	LDAPデータ	アクセスログに関するデータ
Ver.5.6.1	○	○	○	○
Ver.4.5.4	×※1	○※2	○	○※3

※1　システム設定は、手動での移行を行ってください。

※2　Ver.4での「システム管理者ロール」「管理者ロール」「種生成ロール」は、Ver.6でシステム固定のロールに変わるため、移行されません。Ver.6で、手動でユーザにロールを関連づけてください。

※3　中継可能な申請情報は移行できないため、データ移行後にVer.6で再度申請が必要です。

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

スケジュールイメージ（Ver.4およびVer.5）

フェーズ	1st Month	2nd Month	3rd Month
マイルストーン	▼ご発注		新規環境構築完了▼
貴社	発注手続き 現状調査、要件定義、運用検討 NW設定変更、HW設置環境準備 HW/仮想環境調達 打ち合わせ、パラメータシート作成	構築立ち合い	受入・設定変更
弊社	提案/見積 導入支援（お打合せ＋Q&A対応） パラメータシート確認	新環境構築 データ移行 疎通確認 管理者向け説明	保守サポート

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

試用版の提供とお問い合わせ先

仮想サーバにデプロイしてすぐに使える試用版提供がございます。（試用期間：1ヶ月）

お客様にて試用ソフトウェアを動作させるVMware 環境をご用意いただきます。
VMware ESX：Intel Xeon 2.5Ghz相当以上/メモリ4GB以上/HDD 空き容量50GB以上。
必要に応じてDNSサーバ、メールサーバ、接続先サーバなどをご準備ください。

1. 無料お試し お申し込み
2. （3営業日以内） 弊社より受領連絡
3. （7営業日以内） ソフトウェア提供

無料試用版のお申し込みは右記QRコードから必要事項を入力の上送信ください。
https://www.nri-secure.co.jp/service/solution/accesscheck_trial

バージョンアップのご相談は下記いづれかへご連絡をお願いします。
■購入された販売代理店様
■NRIセキュア製品営業担当　連絡先：ac-sales@nri-secure.co.jp

＼無料試用申込み／

© NRI SecureTechnologies, Ltd.

※ NRI SecureTechnologies、NRIセキュアテクノロジーズの名称、ロゴは株式会社野村総合研究所の登録商標です。
※ SecureCube Access Check、Access Checkの名称、ロゴは株式会社野村総合研究所の登録商標です。
※ その他、本資料に記載された会社名、製品、サービス名、ロゴは各社の日本および他国における商標若しくは登録商標です。
※ 本資料に記載された内容は、予告することなく製品・サービスの仕様・デザイン等を変更、または提供の中止を行う場合がありますのでご了承ください。

NRI SECURE